

平成 31 年度

入 学 者 選 拔 要 項



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

山梨大学

(<https://www.yamanashi.ac.jp>)

《アドミッション・ポリシー》

◇山梨大学の理念・目標とアドミッション・ポリシー

[理念・目的]

豊かな人間性と倫理性を備え、広い知識と深い専門性を有して、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成する教育・研究を行います。

[キャッチフレーズ]

地域の中核、世界の人材

[教育目標]

個人の尊厳を重んじ、多様な文化や価値観を受け入れ、自ら課題を見だし解決に努力する積極性、先見性、創造性に富んだ人材の養成を目指しています。

[アドミッション・ポリシー]

山梨大学は、「地域の中核、世界の人材」の標語の下、地域の知の拠点として、専門性をもって世界で活躍できる人を育てることを目指しています。これを実現するため、学部・学科などの教育プログラムには、その修了に必要な教養、汎用能力、専門能力をすべて身につけられるカリキュラムが編成されています。本学では、これらのカリキュラムを知的好奇心をもって継続的・主体的に修得して卒業し、専門分野に関する高度な能力を通じて社会に貢献する志をもつとともに、入学時において以下のような基礎的な資質能力を有する人物を国内外から受け入れます。

[入学者に求める資質能力]

高等学校で履修する、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語等について、内容を理解し、高校卒業程度の知識を有している人その他、各教育プログラムの学修に必要な資質能力（思考力・判断力・表現力など）を有する人

▽教育学部の理念・目標とアドミッション・ポリシー

[理念・目的]

人間と文化・社会に関する幅広い視野と教養をもち、人間の生涯発達と学習についての専門的な知識を備え、豊かな人間生活の構築に寄与する人材養成のための教育・研究を目的としています。

[キャッチフレーズ]

豊かな人間性と教育文化

[教育目標]

人間の生涯発達を視野に収め、教育に対する情熱と課題を解決する高い実践力を備え、豊かな人間生活の構築に寄与する教育人の養成を目指します。

[アドミッション・ポリシー]

これからの子どもの成長と発達に高い関心を持ち、教育現場の諸問題に取り組むことのできる情熱を持った教員を目指す人を求めています。そこで、次のような資質と能力を持つ人の受験を期待します。

- ・子どもの成長・発達や学校教育に対して高い関心を持っている人
- ・自ら深く学ぶため主体的に課題を見出すことができる人
- ・課題の解決に向けた探求の努力を継続する意欲のある人
- ・多様な考えの人たちと協力できるコミュニケーション能力や協調性を備えた人

[入学前に学習しておくことが期待される内容]

各コースの専門性に応じた教科・科目の内容を確実に身につけておくことが必要です。同時に、将来教育に携わる者として、子どもの成長・発達や学校教育に対する関心、多様な考えの人たちとのコミュニケーション能力、個性豊かな考えとそれを表現する力を、様々な活動を通して身につけておくことを望んでいます。

▽医学部の理念・目標とアドミッション・ポリシー

[理念・目的]

深い人間愛と広い視野を持ち、医の倫理を身につけ、科学的根拠に基づいた医学的知識、技術を備え、地域医療や国際医療に貢献できる医療人や国際的に活躍できる優れた研究者を養成する教育・研究を行います。

[キャッチフレーズ]

国民の健康を支える医療人育成

[教育目標]

病める人の苦痛を自らの苦痛と感ずることができ、生涯にわたって医学的知識、技術の修得に努め、地域社会・国際社会の保健医療・福祉に貢献する人材及び疾患の原因解明や治療法の開発に寄与できる研究者の養成を目指しています。

[アドミッション・ポリシー]

医学部では、「国民の健康を支える医療人の育成」を行うため、次のような資質と能力を持つ人材を求めています

- ・単に病気やけがを治すだけでなく、一人一人に最良の医療を提供するために、努力を惜しまない人
- ・健康問題に興味があり、地域医療や国際医療に貢献したいと考えている人
- ・疾患の原因を解明し、治療法を開発したいと考えている人
- ・深い人間愛と広い視野を持ちコミュニケーション能力が高い人

[入学前に学習しておくことが期待される内容]

医学部の授業内容を理解するためには、各コースの専門性に応じた高等学校における教科・科目の内容を確実に身につけておくことが必要です。さらに、学科の違いによって次のような違いがあります。

○医学科

医学部で幅広い医学的知識を学習するために必要な基礎学力を身につけておいてください。特に、大学受験の理科科目として物理学、化学を選択した学生であっても生物学の基礎を修得していることを望みます。外国語の修得には時間がかかりますので、入学前から常に英語力の向上を目指してください。また、多彩な人との豊かな人間関係を築くこと、様々な組織の中でチームワークによる活動の経験を持つことによって、医療人に求められる高い倫理観、信頼される人間性、広い社会的視野を涵養することを心掛けてください。

○看護学科

看護学科入学までに高等学校で学ぶ数学、理科、国語、英語、社会の内容を十分理解していることが必要です。加えて、主体的に学習する態度を身につけ、多様な世代の人々と豊かな人間関係を築き、国内外の社会情勢の変化に眼を向けてください。

▽工学部の理念・目標とアドミッション・ポリシー

[理念・目的]

広い教養と深い専門知識を身につけ、豊かな想像力と優れた判断力を備えた、将来を担う工学系技術者を養成する教育・研究を行います。

[キャッチフレーズ]

未来世代を思いやるエンジニアリング教育

[教育目標]

基礎的・専門的学力、論理的な表現力やコミュニケーション能力を修得するとともに、工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に負っている責任を理解し、科学的知見と技術を総合して社会的課題を解決する能力、すなわちエンジニアリングデザイン能力を身につけた人材を養成します。

[アドミッション・ポリシー]

工学部では、「未来世代を思いやるエンジニアリング教育」をキャッチフレーズとして掲げ「広い教養と

深い専門性をもち豊かな想像力と優れた判断力を備えた将来を担う工学系技術者を養成する」ため、工学技術者となって社会に貢献しようとする意志を持ち、積極的な学習意欲、基礎的学力、論理的思考力・表現力などを有する人を求めています。

[入学前に学習しておくことが期待される内容]

高等学校で学ぶ数学、理科、英語、国語、社会の内容を十分に理解していることが必要です。希望する学科の専門に関連する内容を理解するだけでなく、自分の言葉で他者とコミュニケーションする素養を持つことを期待しています。

▽生命環境学部の理念・目標とアドミSSION・ポリシー

[理念・目的]

自然と社会の共生科学に基づき、広い視野と深い専門知識を身につけ、持続可能な地域社会の繁栄を担う人材を養成する教育・研究を行います。

[キャッチフレーズ]

自然と社会の共生科学の創生

[教育目標]

生命科学・食物生産・環境科学・社会科学に関する実践教育により、広範な知識を統合し、問題を発見し解決する能力を身につけ、自然と社会の共生の観点から持続可能で豊かな地域社会を実現できる人材の養成を目指します。

[アドミSSION・ポリシー]

生命環境学部では、「自然と社会の共生科学の創生」を行うため、自然と社会の共生科学の視点から、生命・食・環境・経営などの諸課題に取組み、解決する意欲をもつ人を求めています。

[入学前に学習しておくことが期待される内容]

生命環境学部では、授業内容を理解するために、学科の専門性に応じた高等学校における教科・科目の内容を確実に身につけておくことが必要です。さらに、学科の違いによって次のような違いがあります。

○生命工学科

バイオサイエンスを理解し、バイオテクノロジーを身につけるために、生物を中心とした学問領域に加え、多様な物質を扱う化学に関する知識が必要です。論理的思考力を養うため、数学の素養も望んでいます。入学試験で課している科目について、十分な学力を有していることを期待しています。

○地域食物科学科

食物生産あるいはワイン製造に関する課題を解決するためには、原料の生産・加工・利用等を含む総合的な知識が必要です。したがって、高等学校で学ぶ化学・生物などの理科学科目を十分に理解できていることを望んでいます。また、自らの考えを論理的に伝える基礎として、高等学校で学ぶ国語・英語を身につけておくことを期待しています。

○環境科学科

高等学校で履修した物理、化学、生物、地学といった理系科目に加え、自分の言葉で他者とコミュニケーションをとるための国語や外国語の素養が身につけていることを望んでいます。さらに、地理歴史、公民といった社会系科目に対する理解と同時に、環境に対する関心や興味を持っていることを期待しています。

○地域社会システム学科

普段から新聞や書籍を読み、政治・経済の動向や現代社会の問題に強い関心を持っていることを望んでいます。入学試験で課している科目の基礎的内容を十分に理解していることが必要です。

I 入学定員（募集人員）

学部	課程・学科・コース名	入学定員	募 集 人 員							総募集人員
			一 般 入 試		推 薦 入 試			アドミッ ション・オ フイス入 試	私費外 国人留 学生入 試	
			前期日程	後期日程	一般枠	地域枠	専門学科 ・総合学科 卒業生			
教育 学部	学校教育課程	125							若干人	
	幼小発達教育コース		15	5						20
	障害児教育コース		12	5	3					20
	言語教育コース		10	3	2					15
	生活社会教育コース		15	5	2					22
	科学教育コース		18	6	3		1			28
	芸術身体教育コース	8	4	8				20		
計	125	78	28	18		1		125		
医 学部	医学科	125		90		35人以内				125
	看護学科	60	30	5	25					60
	計	185	30	95	25	35人以内				185
工 学 部	機械工学科	55	37	8	10				若干人	55
	電気電子工学科	55	35	7	10		3			55
	コンピュータ理工学科	55	35	8	10		2			55
	情報メカトロニクス工学科	55	35	5	13		2			55
	土木環境工学科	55	33	7	15					55
	応用化学科	55	26	7	14			8		55
	先端材料理工学科	35	25	6	4					35
計	365	226	48	76		7	8	365		
生 命 環 境 学 部	生命工学科	35	30	5					若干人	35
	地域食物科学科	37	32	5					若干人	37
	ワイン科学特別コース*1		(13)						(13)	
	環境科学科	30	25	5					若干人	30
	地域社会システム学科	48	43	5					若干人	48
	観光政策科学特別コース*2		(13)						(13)	
計	150	130	20					若干人	150	
合 計		825	464	191	119	35人以内	8	8	若干人	825

* 1 地域食物科学科ワイン科学特別コースの（ ）内の人員については、地域食物科学科の人員に含まれます。

* 2 地域社会システム学科観光政策科学特別コースの（ ）内の人員については、地域社会システム学科の人員に含まれます。

Ⅲ 入学者の選抜方法

1 教科・科目の表記について

大学入試センター試験の出題教科・科目名は、次のように略しています。

教科	表記	科目	表記
国語	国	国語	国
地理歴史	地歴	世界史 A	世 A
		世界史 B	世 B
		日本史 A	日 A
		日本史 B	日 B
		地理 A	地理 A
		地理 B	地理 B
公民	公民	現代社会	現社
		倫理	倫
		政治・経済	政経
		倫理、政治・経済	倫・政経
数学	数	数学 I	数 I
		数学 I・数学 A	数 I・数 A
		数学 II	数 II
		数学 II・数学 B	数 II・数 B
		簿記・会計	簿
		情報関係基礎	情報
理科	理	物理基礎	物基
		化学基礎	化基
		生物基礎	生基
		地学基礎	地基
		物理	物
		化学	化
		生物	生
		地学	地
外国語	外	英語	英
		ドイツ語	独
		フランス語	仏
		中国語	中
		韓国語	韓

個別学力検査の出題教科・科目名は、次のように略しています。

教科	表記	科目	表記
国語	国	国語総合・国語表現・ 現代文 A・現代文 B・ 古典 A・古典 B	国語総合・国語表現・ 現代文 A・現代文 B・ 古典 A・古典 B
数学	数	数学 I	数 I
		数学 II	数 II
		数学 III	数 III
		数学 A	数 A
		数学 B	数 B
理科	理	物理基礎	物基
		化学基礎	化基
		生物基礎	生基
		物理	物
		化学	化
		生物	生
外国語	外	コミュニケーション英語基礎・ コミュニケーション英語 I・コ ミュニケーション英語 II・コ ミュニケーション英語 III・英語表 現 I・英語表現 II・英語会話	コミュニケーション英語基礎・ コミュニケーション英語 I・コ ミュニケーション英語 II・コ ミュニケーション英語 III・英語表 現 I・英語表現 II・英語会話

3 推薦入試、アドミッション・オフィス入試の概要

選抜方法等		推薦入試、専門学科・総合学科卒業生推薦入試							推薦入試 募集人員	アドミッション ・オフィス入試	備 考
		入学定員の一部分について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を 免除し調査書を主な資料として判定する									
		個別学力 検査を免 除し、大 学入試セ ンター試 験を課す る	個別学力 検査及び 大学入試 センター 試験を免 除する	実 技 検 査 等							
実技検 査を課 する	面接を 行う			小論文 を課す る	外国語 におけ るリス ニング テスト を課す る						
学部・課程・学科・コース名											
教 育 学 部	幼小発達教育コース								19人 (注)4 参照	×	Ⅲ-5 推薦入試 (P24~26)を参照
	障害児教育コース	×	○	×	○	○	×	×			
	言語教育コース	×	○	×	○	○	×	×			
	生活社会教育コース	×	○	×	○	○	×	×			
	科学教育コース	×	○	×	×	×	×	○			
	芸術身体教育コース	×	○	○ (注)3	○	×	×	×			
医 学 部	医学科	○	×	×	○	×	×	×	35人以内 (注)5 参照	×	Ⅲ-5 推薦入試 (P27~28)を参照
	看護学科	×	○	×	○	○	×	×	25人		
工 学 部	機械工学科								83人 (注)6,7 参照	×	Ⅲ-5 推薦入試 (P29~31)を参照 Ⅲ-6 アドミッシ ョン・オフィス入 試 (P32)を参照
	電気電子工学科										
	コンピュータ理工学科										
	情報メカトロニクス工学科	×	○	×	○	○	×	×			
	土木環境工学科										
	応用化学科									○	
先端材料理工学科								×			
生 命 環 境 学 部	生命工学科									×	
	地域食物科学科										
	環境科学科										
	地域社会システム学科										

- (注) 1 ○印は、当該検査等を課すこと又は該当することを示します。
 2 ×印は、当該検査等を課さないこと又は該当しないことを示します。
 3 教育学部の芸術身体教育コースの体育実技を選択する方は、活動実績報告書とその証明書類の提出をもって実技検査とします。
 4 次頁
 5 次頁
 6 次頁
 7 次頁

(注) 4 教育学部推薦入試募集人員の内訳は、次表のとおりです。

課 程 ・ コ ー ス 名		募集人員	推薦入試の対象となる高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）・志願者の範囲
学校教育課程	障害児教育コース	3人	全国の国公私立高等学校
	言語教育コース	2	
	生活社会教育コース	2	
	科学教育コース	3	
	科学教育コース	1	全国の国公私立高等学校の工業に関連する学科 全国の国公私立高等学校の総合学科のうち工業に関する科目を含め職業に関する科目を20単位以上履修見込みの方
	芸術身体教育コース	8	全国の国公私立高等学校

(注) 5 医学部医学科推薦入試募集人員の内訳は、次表のとおりです。

学 科 名	種 別	募集人員	推薦入試の対象となる高等学校の範囲
医学科	地域枠	35人以内	山梨県内の公私立高等学校

(注) 6 工学部一般推薦入試の募集人員の内訳は、次表のとおりです。

学 科 名	募集人員	推薦入試の対象となる高等学校の範囲
機械工学科	10人	全国の国公私立高等学校
電気電子工学科	10	
コンピュータ理工学科	10	
情報メカトロニクス工学科	13	
土木環境工学科	15	
応用化学科	14	
先端材料理工学科	4	
計	76	

(注) 7 工学部専門学科・総合学科卒業生推薦入試の募集人員の内訳は、次表のとおりです。

学 科 名	募集人員	推薦入試の対象となる高等学校・志願者の範囲
電気電子工学科	3人	全国の国公私立高等学校の職業に関する学科若しくは総合学科において本学の志望学科に関係のある専門教育を受けた方
コンピュータ理工学科	2	
情報メカトロニクス工学科	2	
計	7	

5 推薦入試

(1) 教育学部（一般推薦入試）

実施課程名	学校教育課程		
募集人員	コース	募集人員	推薦入試の対象となる志願者の範囲と選抜方法
	障害児教育コース	3人	全体の評定平均値が4.0以上 面接・小論文を課す
	言語教育コース	2	全体の評定平均値が4.0以上 面接・小論文を課す
	生活社会教育コース	2	全体の評定平均値が4.0以上 面接・小論文を課す
	科学教育コース	3	全体の評定平均値が4.0以上で、「数学Ⅲ」を履修していること 口述試験を課す（数学、理科、一般的な科学技術に関する内容を含みます。（注）参照）
	芸術身体教育コース	8	全体の評定平均値が3.8以上 実技検査（別紙2 P25参照）・面接を課す
出願要件	<p>1 推薦し得る学校及び推薦人員 推薦し得る学校は、全国の国公立高等学校とし、1高等学校から推薦し得る人員は、各コースごとに1人とします。（科学教育コースは2人までとします。）</p> <p>2 推薦入試志願者の資格等 推薦入試志願者は、次の(1)(2)(3)(4)の条件をすべて満たしている方とします。</p> <p>(1) 高等学校を平成30年度中に卒業した方及び卒業見込みの方 (2) 高等学校の学業成績が優秀で、調査書の評定平均値等が上記の範囲の方 (3) 本学部の学生となるのに十分な適性と強い意欲を持った方で、高等学校長が責任をもって推薦できる方 (4) 合格した場合は入学することを確約できる方</p>		
選抜方法等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、推薦書、調査書、活動実績報告書とその証明書類（学校教育課程芸術身体教育コースの体育実技を選択する方）の内容、本学が実施する面接、小論文、実技検査等の各成績の結果を総合して判定し、合格者を決定します。		
出願期間	平成30年11月12日(月)～11月20日(火)		
選抜期日	平成30年12月1日(土)		
合格発表日	平成30年12月10日(月)		
その他			

(注) 科学教育コースでは、受験票送付の際に、「数学」、「理科」、「一般的な科学技術」に関連したテーマを各一つ記した書類を同封します。

受験生は、それらのテーマの中から一つを選択し、そのテーマに沿った小論文をあらかじめ書いて、それを口述試験当日に持参してください。科学教育コースでは、受験生から提出された小論文を参考資料として「数学」、「理科」、「一般的な科学技術」のうちいずれかに関する内容を含む口述試験を行います。

(送付されてきた受験票にテーマが同封されていなかった場合、教学支援部入試課に連絡してください。)

実技検査の内容（学校教育課程）

教育学部（一般推薦入試）

課程・コース	実 技 検 査 の 内 容 ・ 注 意 事 項
学校教育課程 芸術身体教育コース	以下の音楽実技、美術実技、体育実技の中から、いずれか1つを選択すること。
	<p>音楽実技を選択する方 下記のⅠ、Ⅱを受験すること。</p> <p>Ⅰ 共通課題（音楽基礎能力試験） 下記のA、B、C、Dを受験すること。</p> <p>A 旋律聴音 1題（12～16小節）</p> <p>B 新曲視唱 1題（練習時間5分程度） 移動ド、固定ド、母音唱などの唱法は問わない。</p> <p>C コンコーネ50番 No.15～No.35より当日1、2曲指定する。 移動ド、固定ド、母音唱などの唱法は問わない。 高、中、低声用いずれでもよい。楽譜を見てもよい。</p> <p>D ピアノ 任意の楽曲を1曲演奏すること。 （暗譜すること。繰り返しは省略すること。）</p> <p>（注）Ⅱの選択課題をピアノで受験する方は、上記Dは必要がない。</p> <p>Ⅱ 選択課題（演奏実技） 任意の器楽曲、又は声楽曲を演奏すること。</p> <p>1 ピアノで受験の場合</p> <p>① 1曲又は数曲を演奏すること（10分程度）。</p> <p>② 試験当日楽譜を持参すること。</p> <p>2 声楽で受験の場合</p> <p>① 日本歌曲を含む2曲を演奏すること。外国語は原語で演奏すること。</p> <p>② 出願時に演奏曲の楽譜（ピアノ伴奏の必要な場合は伴奏部を伴った楽譜）を同封すること。</p> <p>3 ピアノ以外の楽器で受験の場合</p> <p>① 1曲又は数曲を演奏すること（5～10分程度）。</p> <p>② 電子オルガン（YAMAHA、ELS-01C バイタライズユニット Ver.up 済み） 以外の楽器は各自持参すること。なお、自動伴奏機能は使わないこと。</p> <p>③ 出願時に演奏曲の楽譜（曲名及び楽器名を明示。）を同封すること。</p> <p>④ 伴奏は無しとする。</p> <p>（注）1 全て暗譜すること。繰り返しは省略すること。 2 演奏する曲の様式、ジャンルは問わない。自作のものでよい。</p>
	<p>美術実技を選択する方 造形表現力の検査（形態、色彩、構成力などに関する考査を200分で行う。）</p> <p>（注）1 透明、不透明、アクリル絵の具のいずれかと、鉛筆、消具、筆、筆洗、パレット、筆ふき布など、彩色用具一式を持参すること。</p> <p>2 B3画用ボード、イーゼルは本学で用意する。</p>
<p>体育実技を選択する方 高等学校在籍時の各種大会参加等の活動実績について、「活動実績報告書」と「活動実績報告書証明書類」を用いて実技検査とする。</p>	

(2) 教育学部（専門学科・総合学科卒業生推薦入試）

実施課程名	学校教育課程		
募集人員	コース	募集人員	推薦入試の対象となる志願者の範囲
	科学教育コース	1人	全国の国公私立高等学校の工業に関連する学科を卒業見込みの方 全国の国公私立高等学校の総合学科を卒業見込みの方のうち、工業に関する科目を含め 職業に関する科目を20単位以上履修見込みの方
出願要件	<p>1 推薦し得る学校及び推薦人員 推薦し得る学校は、全国の国公私立高等学校とし、1高等学校から推薦し得る人員は1人とします。</p> <p>2 推薦入試志願者の資格等 推薦入試志願者は、次の(1)(2)(3)(4)の条件をすべて満たしている方とします。</p> <p>(1) 高等学校を平成30年度中に卒業した方及び卒業見込みの方</p> <p>(2) 上記の募集人員欄の推薦入試の対象となる高等学校・志願者の範囲に該当する方</p> <p>(3) 調査書の学習成績概評が「A」以上で、本学部入学後、学業に意欲的に取り組むことを高等学校長が責任をもって推薦できる方</p> <p>(4) 合格した場合は入学することを確約できる方</p>		
選抜方法等	<p>科学教育コースの技術教育系を希望する方に、大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、下記の方法により選抜します。</p> <p>口述試験（「数学」、「理科」及び「課題研究」に関する内容を含む。）、推薦書及び調査書を総合して判定し、合格者を決定します。</p>		
出願期間	平成30年11月12日(月)～11月20日(火)		
選抜期日	平成30年12月1日(土)		
合格発表日	平成30年12月10日(月)		
その他			

(3) 医学部医学科 (推薦入試)

実施学科名	医学科
募集人員	地域枠 35人以内 (欠員が生じた場合は、後期日程で補充します。)
出願要件	<p>山梨県内の高等学校を平成30年3月に卒業した方 (平成29年4月から平成30年3月までの学年の途中において卒業した方を含む。) 並びに平成31年3月高等学校を卒業見込みの方 (単位制学校で、卒業が3月でない場合に限り、平成30年度に卒業した方を含む。) で、次の要件を全て満たし、高等学校長が責任をもって推薦できる方とします。</p> <p>下記要件を1つでも満たさない方は、出願できません。</p> <p>ア 医師免許取得後、初期臨床研修を含む一定期間山梨県内の医療機関 (本学医学部附属病院を含む。) において医師の業務に従事することを確約できる方 ※一定期間とは、山梨県医師修学資金貸与制度の規定に準じる。</p> <p>イ 山梨県医師修学資金貸与制度の利用を確約できる方 (山梨県ホームページ参照*) ※山梨県医師修学資金を一括返済しても、山梨県内で医師として業務に従事する期間は短縮されません。</p> <p>ウ 高等学校における調査書の学習成績概評が「㊤」又は「A」である方 ※「㊤」とは学習成績概評がAに属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀で、高等学校長が責任をもって推薦できる方です。この場合、高等学校長は調査書の「備考」の欄にその理由を明示しなければなりません。</p> <p>エ 合格した場合は入学することを確約できる方</p> <p>なお、平成31年度大学入試センター試験の本学が指定した教科・科目の受験が必要です。</p>
選抜方法等	<p>第1次選考 学校長から提出された推薦書、調査書及び志願理由書並びに大学入試センター試験の成績により、第1次選考の合格者を決定します。なお、第1次選考の合格者数は、募集人員の約1.5倍とします。ただし、志願者が募集人員の約1.5倍を超えない場合は、第1次選考を行いません。</p> <p>第2次選考 第1次選考の合格者に対して、面接を課し、この評価及び学校長から提出された推薦書、調査書及び志願理由書並びに大学入試センター試験の成績を総合評価して、第2次選考の合格者を決定します。</p> <p>平成31年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目 国語 (国) 地歴 (世B、日B、地理B、倫・政経から1) 公民 数 (数I・数A) (数II・数B) 理 (物、化、生から2) 外 (英) [5教科7科目] (注) 1 「外国語」の「英語」は、リスニングテストの成績も利用します。 2 「地歴」、「公民」のうちから1科目のところ2科目受験した場合は、「第1解答科目」の得点をその成績とします。</p>
出願期間	平成30年12月12日 (水)～12月18日 (火)
選抜期日	平成31年2月12日 (火) (第2次選考)
合格発表日	平成31年2月13日 (水)
その他	<p>*山梨県ホームページ【医師修学資金について】 http://www.pref.yamanashi.jp/imuka/ishikakuho/kakuhojigyo/shugakushikin.html</p>

(4) 医学部看護学科（一般推薦入試）

実施学科名	看護学科
募集人員	25人（欠員が生じた場合は、前期日程で補充します。）
出願要件	<p>高等学校（文部科学大臣により高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定された在外教育施設を含む。）若しくは中等教育学校を平成29年3月及び平成30年3月に卒業した方（平成28年4月から平成30年3月までの学年の途中において卒業した方を含む。）並びに平成31年3月高等学校若しくは中等教育学校を卒業見込みの方（単位制高校・在外教育施設等で、卒業が3月でない場合に限り、平成30年度に卒業した方を含む。）で、次の要件を満たし、学校長が責任をもって推薦できる方とします。</p> <p>ア 本学志望の動機が明確で、将来看護学の分野で社会に貢献する意欲をもっている方</p> <p>イ 高等学校若しくは中等教育学校後期課程における調査書の全体の評定平均値が4.0以上である方</p> <p>ウ 課外活動等にも積極的に参加して、充実した高等学校若しくは中等教育学校生活を送った方</p> <p>エ 合格した場合は入学することを確約できる方</p>
選抜方法等	小論文及び面接を課し、この評価並びに学校長の推薦書及び調査書を総合的にみて、入学者を選抜します。
出願期間	平成30年11月12日（月）～11月20日（火）
選抜期日	平成30年12月1日（土）
合格発表日	平成30年12月10日（月）
その他	

(5) 工学部（一般推薦入試）

実施学科名	機械工学科 電気電子工学科 コンピュータ理工学科 情報メカトロニクス工学科 土木環境工学科 応用化学科 先端材料理工学科								
募集人員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">機械工学科 10人</td> <td style="width: 50%;">電気電子工学科 10人</td> </tr> <tr> <td>コンピュータ理工学科 10人</td> <td>情報メカトロニクス工学科 13人</td> </tr> <tr> <td>土木環境工学科 15人</td> <td>応用化学科 14人</td> </tr> <tr> <td>先端材料理工学科 4人</td> <td></td> </tr> </table>	機械工学科 10人	電気電子工学科 10人	コンピュータ理工学科 10人	情報メカトロニクス工学科 13人	土木環境工学科 15人	応用化学科 14人	先端材料理工学科 4人	
機械工学科 10人	電気電子工学科 10人								
コンピュータ理工学科 10人	情報メカトロニクス工学科 13人								
土木環境工学科 15人	応用化学科 14人								
先端材料理工学科 4人									
出願要件	<p>1 推薦し得る学校及び推薦人員 推薦し得る学校は、全国の国公私立高等学校とし、1高等学校から推薦し得る人員に制限はありません。</p> <p>2 推薦入試志願者の資格等 推薦入試志願者は、次の(1)～(4)の条件をすべて満たしている方とします。大学入試センター試験の受験は必要としません。 なお、別途実施する「工学部専門学科・総合学科卒業生推薦入試」との併願はできません。</p> <p>(1) 高等学校を平成29年4月から平成31年3月までに卒業した方又は卒業見込みの方</p> <p>(2) 被推薦者の高等学校の学業成績に対する条件 機械工学科、電気電子工学科、コンピュータ理工学科、情報メカトロニクス工学科、土木環境工学科、先端材料理工学科については、高等学校の学業成績が優秀で、調査書の全体の評定平均値が3.8以上、若しくは数学の評定平均値が4.0以上である方 応用化学科については、高等学校の学業成績が優秀で、調査書の全体の評定平均値が3.8以上、若しくは理科の評定平均値が4.0以上、又は数学の評定平均値が4.0以上である方</p> <p>(3) 本学部の学生となるのに十分な適性と強い勉学意欲を持った方で、高等学校長が責任をもって推薦できる方 ただし、高等学校の普通科を卒業又は同学科に在籍している志願者については、別表（P30）に示す○印を付した科目を履修していることが望ましい。 また、高等学校の専門教育を主とする学科あるいは総合学科を卒業又は同学科に在籍している志願者については、志望学科ごとに別表に示す○印を付した科目に関係が深い科目を履修していることが望ましい。</p> <p>(4) 合格した場合は、入学することを確約できる方</p>								
選抜方法等	<p>高等学校長から提出される推薦書、調査書の各内容、本学が実施する小論文及び面接の各成績の結果を総合して判定し、合格者を決定します。 小論文及び面接においては、数学・理科・外国語の素養に関する試問を含むこともあります。</p>								
出願期間	平成30年11月12日(月)～11月20日(火)								
選抜期日	平成30年12月1日(土)								
合格発表日	平成30年12月10日(月)								
その他									

別 表

出願要件(3)の履修していることが望ましい科目

学 科	教 科 科 目	数 学		理 科			
		数Ⅱ・数B	数Ⅲ	物理基礎	物理	化学基礎	化学
機 械 工 学 科		○	○	○	○		
電 気 電 子 工 学 科		○	○	○	○		
コ ン プ ュ ー タ 理 工 学 科		○	○	○	○		
情 報 メ カ ト ロ ニ ク ス 工 学 科		○	○	○	○		
土 木 環 境 工 学 科		○	○	○	○	○	
応 用 化 学 科		○	○	○	○	○	○
先 端 材 料 理 工 学 科		○	○	○	○	○	○

(6) 工学部（専門学科・総合学科卒業生推薦入試）

実施学科名	電気電子工学科 コンピュータ理工学科 情報メカトロニクス工学科
募集人員	電気電子工学科 3人 コンピュータ理工学科 2人 情報メカトロニクス工学科 2人
出願要件	<p>1 推薦し得る学校及び推薦人員 推薦し得る学校は、全国の国公私立高等学校とし、1高等学校から推薦し得る人員に制限はありません。</p> <p>2 推薦入試志願者の資格等 推薦入試志願者は、次の(1)～(4)の条件をすべて満たしている方とします。大学入試センター試験の受験は必要としません。 なお、別途実施する「工学部一般推薦入試」との併願はできません。</p> <p>(1) 高等学校で職業に関する学科若しくは総合学科において、本学の志望学科に関係のある専門教育を受けて卒業した方又は平成30年度中に卒業見込みの方</p> <p>(2) 高等学校の学業成績が優秀で調査書の全体の評定平均値が3.8以上である方</p> <p>(3) 本学部の学生となるのに十分な適性と強い勉学意欲を持った方で、高等学校長が責任をもって推薦できる方</p> <p>(4) 合格した場合は、入学することを確約できる方</p>
選抜方法等	高等学校長から提出される推薦書、調査書の各内容、本学が実施する小論文及び面接の各成績の結果を総合して判定し、合格者を決定します。小論文及び面接においては、論理的思考力、基礎的素養、高等学校の専門課程で学習した成果などに着目して総合的に評価します。また、数学・理科・外国語の素養に関し試問することもあります。
出願期間	平成30年11月12日(月)～11月20日(火)
選抜期日	平成30年12月1日(土)
合格発表日	平成30年12月10日(月)
その他	

6 アドミッション・オフィス入試

工学部

実施学科名	応用化学科
募集人員	8人
出願要件	<p>アドミッション・オフィス入試志願者は、次の(1)～(6)の条件をすべて満たしている方とします。大学入試センター試験の受験は必要としません。</p> <p>(1) 高等学校を平成31年3月卒業見込みの方</p> <p>(2) 学業成績が優秀で、調査書の評定平均値等が次の①～③のいずれかを満たしている方</p> <p>①化学基礎または化学、あるいはそれらに相当する科目の評定が4以上である方</p> <p>②数学の評定平均値が4.0以上である方</p> <p>③全体の評定平均値が4.0以上である方</p> <p>(3) 高等学校在学中に化学グランプリに参加し、その一次選考の成績を提出できる方</p> <p>(4) 本学科の学生となるのに十分な適性と強い勉学意欲のある方</p> <p>(5) 合格した場合は、入学することを確約できる方</p> <p>(6) 化学基礎及び物理基礎、あるいはそれに相当する科目を履修している方、もしくは履修する見込みの方</p> <p>ただし、高等学校の普通科に在籍している志願者については、数Ⅱ・数B、数Ⅲ、化学、物理を履修していることが望ましい。また、高等学校の専門教育を主とする学科あるいは総合学科に在籍している志願者については、これらの科目に関係が深い科目を履修していることが望ましい。</p>
選抜方法等	<p>大学入試センター試験および個別学力検査を課さず、化学グランプリの一次選考の成績、志望理由書、調査書、一般面接、実験・実習の実施、質疑応答の各内容を総合して判定し、合格者を決定します。</p> <p>一般面接では、目的意識、勉学意欲、論理的思考力などを評価します。</p> <p>実験・実習と質疑応答では、概要を事前に指定した(受験票送付時に同封)実験・実習を行い、それについての質疑応答を行います。ここでは、探求意欲、観察力、論理的思考力、コミュニケーション力などを総合的に評価します。</p>
出願期間	平成30年9月10日(月)～9月18日(火)
選抜期日	平成30年9月29日(土)
合格発表日	平成30年10月5日(金)
その他	

7 私費外国人留学生入試

教育学部、工学部、生命環境学部

- ① 本学の教育学部、工学部及び生命環境学部では、大学入試センター試験を免除し、私費外国人留学生のための入学者選抜を実施します。
- ② 選抜にあたっては、独立行政法人日本学生支援機構が平成30年6月及び11月に実施する「平成30年度日本留学試験」の成績を利用しますので、必ず受験してください。
なお、利用科目等については、下表を参照してください。
- ③ 教育学部、工学部（機械工学科、電気電子工学科、コンピュータ理工学科、情報メカトロニクス工学科、先端材料理工学科）、及び生命環境学部は「日本留学試験」のほかに、英語科目として TOEFL または TOEIC の成績を利用しますので、必ず受験してください。
- ④ 詳細は、12月1日（土）までに発表予定の「平成31年度山梨大学私費外国人留学生入試募集要項」を参照してください。

・日本留学試験の利用科目等

学部・学科等名		利 用 科 目 名	出題言語
教育学部	学校教育課程 幼小発達教育コース 障害児教育コース 言語教育コース 芸術身体教育コース	①日本語 ②総合科目 ③数学（コース1）	日本語
	学校教育課程 生活社会教育コース	①日本語 ②総合科目 ③数学（コース1） ④理科（物理・化学・生物から2科目選択）から日本語を含む3科目を選択	
	学校教育課程 科学教育コース	①日本語 ②理科（物理・化学・生物から2科目選択） ③数学（コース2）	
工学部	機械工学科	①日本語 ②理科（物理・化学） ③数学（コース2）	日本語
	電気電子工学科	①日本語 ②理科（物理必須、化学・生物から1科目選択、合計2科目） ③数学（コース2）	
	コンピュータ理工学科	①日本語 ②理科（物理・化学・生物から2科目選択） ③数学（コース2）	
	情報メカトロニクス工学科	①日本語 ②理科（物理必須、化学・生物から1科目選択、合計2科目） ③数学（コース2）	
	土木環境工学科	①日本語 ②理科（物理・化学・生物から2科目選択） ③数学（コース2）	
	応用化学科	①日本語 ②理科（物理・化学） ③数学（コース2）	
	先端材料理工学科	①日本語 ②理科（物理・化学） ③数学（コース2）	
生命環境学部	生命工学科	①日本語 ②理科（化学必須、物理・生物から1科目選択、合計2科目） ③数学（コース2）	日本語
	地域食物科学科	①日本語 ②理科（物理、化学、生物から2科目選択） ③数学（コース2）	
	環境科学科	①日本語 ②理科（物理、化学、生物から2科目選択） ③数学（コース2）	
	地域社会システム学科	①日本語 ②総合科目 ③数学（コース1）	

(注) 利用科目には、得点基準が定まっているので募集要項にて確認してください。